令和５年度第３回半田市男女共同参画審議会　議事録

開催日時	令和６年２月６日（火）１３時～１５時
開催場所	半田市役所　会議室４０１
次　第	１．あいさつ ２．報告 （１）令和５年度みんなが輝くチャレンジプラン評価報告書について ３．議題 （１）次年度に向けたプラン評価方法の変更点等について ４．その他
出 席 者	会　長：松井真一 委　員：板倉惠美、岩浪房子、高下隆史、榊原衣麻、大坪成生、荒川裕子、 中野直哉（欠席）　※敬称略 事務局：市民協働課長　藤井寿芳、主査　森幸、主事　富田大地、事務員　柳田愛日

議事録

２．報告「令和５年度みんなが輝くチャレンジプラン評価報告書について」
事務局より説明。

会長	評価報告書（案）は委員意見をもとに修正された内容になっていると思うが、意見が反映されているか等確認していただき、拍手をもって承認としたい。

委員の拍手にて承認。

会長	プランの評価に関わっていただいた感想や評価に込めた想い等について委員の皆さんから一言ずつ伺いたい。
委員	半田市としての男女共同参画の推進に関する取組は、何年も継続して行われており、他市町と比較しても半田市はよくやっていると評価できる。B 評価が多いことに関しては、今まで継続してきた取組は評価できるものであるため、次年度に向けて、さらに取り組んでいってほしいという思いで評価した。
委員	男女共同参画はあらゆる分野に関わることであり、評価をすること自体難しいと感じた。市民目線に立って、市民と行政が協働でどのようにプランの内容を進めていくかを考えることが携わった者の課題かと思った。自分自身は今回携わることができ、プランの内容を知ることができて良かったと感じた。
委員	自分がどの立場で考え、意見を言えば良いか始めは迷ったが、様々な立場、背景を持った委員の方との話し合いの中で、気づいたことを少しでも出すことが大事だという思いで関わってきたが、参加したことで様々な取組があることを知る良い機会になった。
委員	正直評価をすることはとても大変だった。評価するときには計画に対して実施内容がどうかを見比べるが、行政ではないため実施した内容を理解することに時間がかかった。ただ、市民の代表として参加している以上、自分なりの目線で、数値目標と効果に関しては意識的に評価した。
委員	計画の目指す将来像「みんなが自分らしく生きられるまち・はんだ」は教育関係者としても大切

	な方向性であるため、教育現場で何ができるかを考えさせられた。評価の際は様々な立場の意見がとても勉強になり、今後に活かしていきたいと思った。何ができるかというところでは、様々な制度や取組はあるが、その制度の間にいる方、取組や支援の網目に引っかからない方々に対し、何かできることがないかを考えていければ、と改めて考えさせられたため、自分の立場でできることをやっていきたいと思った。
会長	今年度から審議会として全体評価を実施するようになったことで、委員の皆さんは苦労があったと思うが、審議会としてABCD評価を行うとともに意見・提言をするという形は、まさに審議会の意義でもあり、市に対して市民の期待を表すような報告書になったのではないか、と考えている。今後は部署ごとに取組の数値目標や市民から見られていることを強く意識しながら取組を進めてもらいたいと思う。また、概ねBがついているが、理想で言えばAが付くよう取組を進めてもらいたい。
３．議題 （１）次年度に向けたプラン評価方法の変更点等について 事務局より説明。	
委員	次年度の評価方法の変更点として、庁内自己評価を実施するとあるが、これは各施策の担当課が自身の評価をすることで良いか。
事務局	その通りである。前回の審議会委員の皆さんのご意見を踏まえ、新たに担当課等による庁内自己評価（A~D）を具体的施策ごとに実施したいと考えている。
会長	数値目標に従って自己評価をしていただきたい。
事務局	数値目標の達成度や取組内容などを総合的に勘案して、審議会全体評価と同様にABCDの庁内自己評価を実施したいと考えている。
委員	自己評価はぜひ行っていただきたい。各課が作成したプランに書かれている具体的政策、各事業に対する達成度を自己評価することで、第三者がその判断は正しいか、修正的な見方をすることができる。また、自己評価については、具体的施策だけではなく、事業毎にも自己点検評価をしてもらいたい。
委員	それは以前の評価方法に戻ることになる。以前は事業毎に評価をしていたが、文書量も多く、細かすぎた。今回の評価報告書はわかりやすくまとめられていて良いと感じた。
事務局	評価報告書を変更した経緯を説明したい。以前は事業毎に評価票を作成し、ABCD評価もつけていたが、事業数が多く、資料が膨大になってしまうこと、また、評価も煩雑になってしまうという点から、昨年度の審議会の中で、もう少し大きな視点で事業が進んでいるかを評価する形に変更しようという意見にまとまり、広い視点で評価していただけるよう今回のような評価報告書に変更した。
会長	以前は取組毎の評価をしていたが、具体的施策や基本施策で見たときに、進捗が分かりにくいという欠点があった。全体を見据えた大きな視点で、各部署も取組をしてほしい、という意図で今回の評価報告書の形になったと理解している。その中で、今回の評価報告書では、各部署における取組の自己評価を実施していないため、審議会として評価しづらくなっている。そこは、

	具体的施策を基準に自己評価をしてもらい、その評価をもとに市民目線で審議会として評価をしていくという方向性でよいのではないか。
委員	自分が自己評価をつける際、結局 C、D 判定をつける勇気がない。判定が低い理由を追求されることを懸念してしまうかもしれないが、C や D もつけてもらいたい。理想としては低い評価に対して足りない部分を市民目線で提言できることが審議会の立ち位置だと思う。協働で進めていくという視点で言えば出された評価に対して話し合い、提言としてどのような取り組みが必要か話し合い、市として取組につなげていけるような自己評価になると良いと思った。
事務局	たしかに担当課の立場からするとC、Dをつけづらい部分もあると思うが、庁内の男女共同参画連絡会議の中でも議論していきたいと思っている。また、自己評価を実施することで、庁内の男女共同参画連絡会議にて自分の課だけでなく横断的な視点を入れながら取組内容を振り返り、課題等を整理することができるため、非常に意義のあることだと考えている。
委員	自己評価の良い点は実施する側が常にプランを意識することになるので、仕組みとしてもとても良いと思っている。
会長	自己評価を入れることに反対意見はないと思うが、過去の経緯も踏まえ来年度については具体的施策毎での評価をするということとし、自己評価を踏まえて審議会全体の評価として、A～D評価を実施するということでよいか。
委員	異議なし。
事務局	それでは、来年度はそのように進めていく。 また、評価表の作成にあたっては、実績値等の数字に基づいた記載を意識するなど、できるだけわかりやすい内容となるよう、努めていく。
委員	講座・研修の参加者数や、施策の目標とする対象者数の分母を示してほしい。また、継続する事業に関しては昨年度のデータも付記があれば昨年度との比較や今後の事業の解析が楽になって良い。
事務局	分母はない場合が多く、市民を対象にした講座といっても全半田市民の人数、もしくは、部屋の定員数を分母に示すことになるため難しい。参加者数など、参考となる数値はできる限り示していく。
委員	学校職員対象の講座では分母が非常に取りにくい。子どもが残っている時間帯の講座に全職員が参加することは不可能であり、持ち回りでの参加や学校から１名という参加枠の場合は分母が定まらない。
会長	評価報告書を見た際、「庁内評価」という記載があるが、市役所特有の呼び方ではないか。一般的には自己評価の方が市民に伝わりやすいのではないか。
事務局	庁内評価という言葉は、総合計画の評価表や、基本的に市役所内の評価に使われているため合わせたが、確かに行政用語かもしれない。他の計画の評価表の表現と合わせていきたいという思いもあるため、市役所内部の評価であるという趣旨の説明を補記する。
委員	今後の流れについて、意見・提言に対する改善策等を検討し、来年度の第１回審議会で報告とあるが、次年度の評価表のとりまとめと重なるため、スケジュールとして事務局は大変ではな

	いか。
事務局	第１回に令和５年度の実施事業のとりまとめの提示と併せて今回の評価報告書に対する改善点等も検討し提示する予定であるため、大変ではあるが、改善策について考えていくことが１番大事な部分であるため、庁内の連絡会議にて今回の評価報告書を共有しつつ、次年度に向けてどのように実施していくかの方向性をできる限り示していきたい。
以上	